

各関係機関・団体の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成22年度発生予察技術情報第15号（果樹カメムシ類）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので送付します。

平成22年度技術情報第15号

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）の誘殺数が北薩地域を中心に8月中旬から増加し、9月以降、多い状況が続いている。同地域を中心に果樹園への飛来と被害が確認されているため、今後も注意が必要である。

1 対象作物 カンキツ、ナシ、カキ

2 情報の根拠

- (1) 出水市Ⅱの予察灯では、9月第4半旬にツヤアオカメムシ4,803頭（前年65頭）、チャバネアオカメムシ4,562頭（前年44頭）が誘殺され、北薩地域では9月に入ってから多い状況が続いている（表1、図1）。
- (2) 北薩地域を中心に、カンキツ、ナシ園で飛来が認められ、一部のほ場では被害が確認されている。
- (3) ヒノキでの寄生虫数は、9月中旬で2種の成・幼虫の合計虫数が26.3頭/地点（うち、成虫23.3頭）で、9月上旬の45.6頭/地点（うち、成虫37.3頭）に比べて減少している（表2、図2）。
- (4) 9月中旬のヒノキ球果口針鞘数（吸汁痕数）は、26.8本/果（前年24.9）で9月上旬の21.1本/果（前年21.7）に比べて増加しており、調査を行った12地点のうち、9地点で離脱の目安である25本/果以上の口針鞘数が確認された（表3）。
- (5) 以上の結果から、ヒノキでの新成虫の発生量も多く、県内全域で成虫の離脱も始まっていることから、今後も引き続き果樹園へ飛来する可能性が高い。

3 防除上注意すべき事項

- (1) カメムシ類の飛来は地域間差、ほ場間差があるので、園内外をよく見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。収穫期に入っている極早生温州園やナシ園では特に注意する。
- (2) 山林（ヒノキ、スギ）に近い果樹園ほど飛来数が多くなる傾向があり、特に、防風樹としてヒノキを植栽している園地では注意する。
- (3) 飛来を認めた場合、一回目の防除は残効の長いネオニコチノイド系薬剤または合成ピレスロイド系薬剤を選択する。合成ピレスロイド系薬剤は、ハダニ類の発生を助長するので散布後の発生に注意する。また、散布後の園内の飛来状況を見極め、二回目以降の防除を実施する。
- (4) 薬剤のかかりの悪い場所へ集中的に飛来する可能性が高いため、薬液が樹全体にかかるように丁寧に散布する。
- (5) 防除に当たっては、防除薬剤の使用回数や使用時期を厳守し、収穫期の近い樹種では、収穫開始予定日を想定して農薬を選定する。

<参考資料>

表1 予察灯におけるカメムシ類の誘殺状況（8～9月）

ツヤアオカメムシ

半旬	垂水市		南さつま市 ¹⁾		いちき串木野市 ²⁾		薩摩川内市 ³⁾		出水市Ⅰ ⁴⁾		出水市Ⅱ ⁵⁾
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年
8月3	20	17	45	59	43	108	801	49	807	122	163
4	5	25	36	35	24	90	417	33	362	103	152
5	1	33	4	30	3	47	84	30	88	31	128
6	6	96	10	35	2	58	35	79	187	73	148
9月1	1	141	79	45	35	80	366 ⁶⁾	82	812	129	2942
2	156	298	27	53	26	105	2114	108	2107	118	3415
3	74	779	33	58	32	69	823	82	1042	280	2176
4	58	643	18	41	32	43	347	54	772	172	4803

1) 南さつま市（旧加世田市），2) いちき串木野市湊町（旧市来町），3) 薩摩川内市東郷町，4) 横置光源トラップ（光源高：約1.5m，H9設置），5) 縦置光源トラップ（光源高：2.7～3.8m，H21設置），6) 故障のため，9月4日～5日の2日間の誘殺数

チャバネアオカメムシ

半旬	垂水市		南さつま市 ¹⁾		いちき串木野市 ²⁾		薩摩川内市 ³⁾		出水市Ⅰ ⁴⁾		出水市Ⅱ ⁵⁾
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年
8月3	24	31	28	35	12	206	426	125	9	85	209
4	30	47	22	55	5	263	651	195	202	132	1098
5	7	75	2	47	1	152	606	200	662	85	3695
6	60	120	19	43	6	209	419	205	635	136	2162
9月1	25	55	228	38	72	131	572 ⁶⁾	156	706	170	4970
2	92	84	26	24	54	491	3661	222	869	173	1974
3	163	95	26	63	16	348	1895	126	250	250	1732
4	100	89	2	25	11	127	1552	192	221	141	4562

1) 南さつま市（旧加世田市），2) いちき串木野市湊町（旧市来町），3) 薩摩川内市東郷町，4) 横置光源トラップ（光源高：約1.5m，H9設置），5) 縦置光源トラップ（光源高：2.7～3.8m，H21設置），6) 故障のため，9月4日～5日の2日間の誘殺数

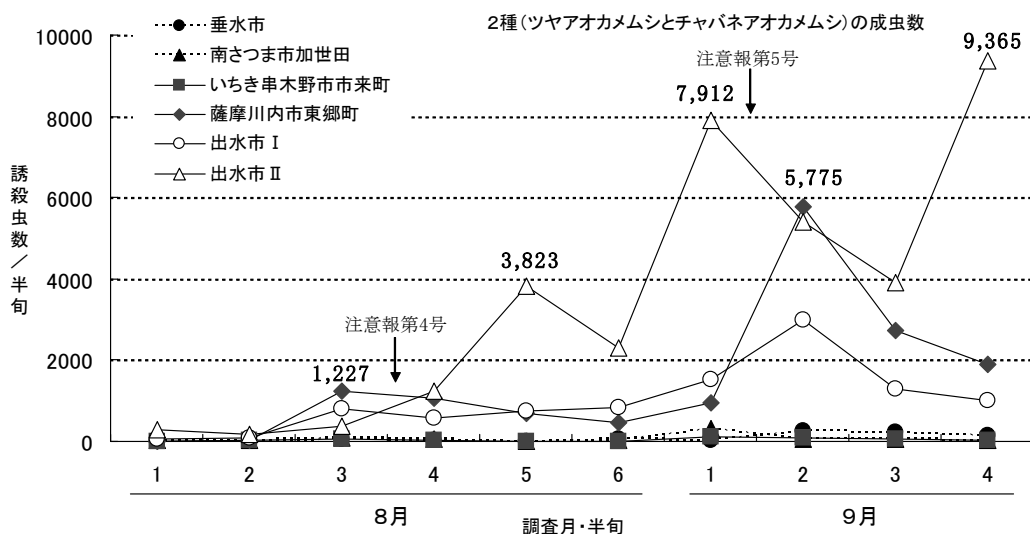


図1 カメムシ類（2種計）の誘殺状況（平成22年）

表2 ヒノキでのカメムシ類（2種，成幼虫合計）寄生状況¹⁾

調査場所	調査時期					
	7月上旬	7月下旬	8月上旬	8月中旬	9月上旬	9月中旬
いちき串木野市1	21(8) ²⁾	33(1) ²⁾	39(22) ²⁾	29(10) ²⁾	32(29) ²⁾	38(32) ²⁾
いちき串木野市2	21(10)	34(11)	46(26)	48(28)	30(24)	13(8)
薩摩川内市東郷町	1(0)	3(2)	1(0)	23(19)	43(24)	30(20)
さつま町	9(8)	23(12)	20(6)	40(30)	40(24)	22(20)
阿久根市	7(5)	28(13)	27(9)	19(8)	54(50)	30(29)
出水市高尾野町	7(6)	18(3)	43(26)	59(43)	75(67)	43(42)
出水市1	1(1)	9(4)	21(15)	45(27)	67(51)	57(54)
出水市2	17(15)	48(4)	38(13)	31(20)	51(47)	8(5)
出水市3	10(3)	30(13)	36(20)	40(31)	103(101)	38(30)
霧島市溝辺町	7(4)	16(9)	16(6)	37(15)	24(15)	26(25)
垂水市	6(4)	12(5)	13(8)	7(2)	14(6)	9(8)
南さつま市加世田	6(4)	17(11)	38(27)	27(14)	13(12)	6(6)
平均	9.4(5.9)	22.6(7.2)	28.2(14.8)	33.8(10.6)	45.6(37.3)	26.3(23.3)

注) 1. 調査日：平成22年7月5～6日（上旬），7月20～21日（下旬），8月2日～3日（上旬）
8月17日～20日（下旬），9月1～3日（上旬），9月14～21日（中旬）

調査方法：1 地点当たり10ヶ所を捕虫網で5回ずつ振るい落とす。

2. 数字はツヤアオカメムシとチャバネアオカメムシの合計値で，（ ）内は成虫数。

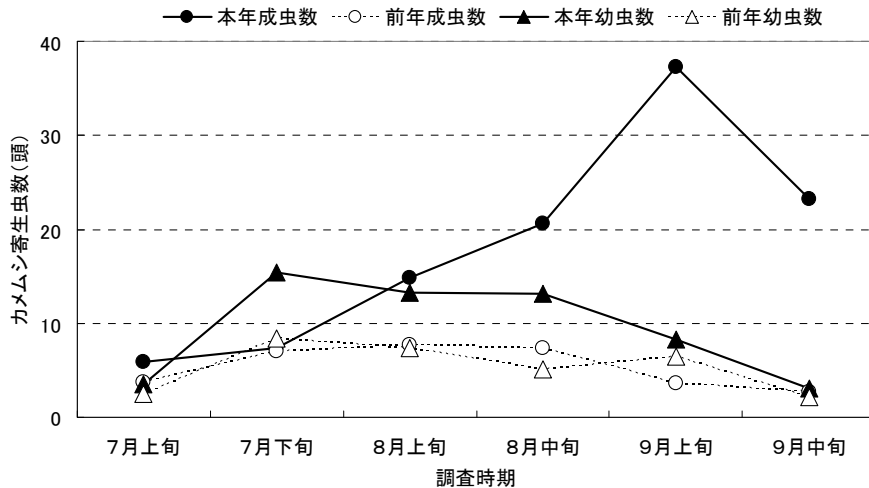


図2 ヒノキでのカメムシ類（2種計）の寄生虫数

表3 ヒノキ球果1果当たりの口針鞘数の推移¹⁾

調査場所	調査時期					
	7月上旬	7月下旬	8月上旬	8月中旬	9月上旬	9月中旬
いちき串木野市1	0.3	0.7	0.7	20.1	21.7	26.2
いちき串木野市2	0.2	3.4	8.9	10.0	21.0	28.4
薩摩川内市東郷町	0.1	0.3	0.7	3.7	16.8	22.1
さつま町	0.2	1.0	1.5	9.8	21.6	25.7
阿久根市	0.2	1.4	1.5	7.1	25.5	27.7
出水市高尾野町	0.1	0.4	0.6	8.5	17.2	24.6
出水市1	0.1	2.2	0.7	15.5	28.7	29.1
出水市2	0.2	3.7	6.5	12.0	27.8	29.3
出水市3	0.1	1.5	3.5	10.0	23.2	28.1
霧島市溝辺町	0.3	0.4	6.0	17.5	25.1	32.4
垂水市	0.1	0.6	0.6	5.4	8.2	22.7
南さつま市加世田	0.2	0.6	6.2	15.9	17.3	25.0
平均	0.1	1.3	3.1	11.3	21.1	26.8

注) 1. 球果採集日：平成22年7月5～6日（上旬），7月20～21日（下旬），8月2日～3日（上旬）
8月17～20日（中旬），9月1～3日（上旬），9月14～21日（中旬）

2. 口針鞘数（吸汁痕数）が約25本／果がヒノキ樹からの離脱の目安